保護者等向け　評価表

公表日：

事業所名：保育所等訪問支援　Rasisa

対象人数（保護者）22人　回答者数 20人　回収 90.9%

		チェック項目	はい	どちらともいえない わからない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	21				
	②	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	20	1			今後も保護者の皆様や訪問先施設と相談を行いながら、お子さまの状況に応じた訪問頻度や支援時間を柔軟に検討してまいります。
	③	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	21				
	④	療育施設には、プライバシーに配慮された面談室等が整えられていますか。	21				
適切な支援の提供	⑤	子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか 。	21				
	⑥	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がありますか。	18	3		普段は、保育園に通っています。	保育所等訪問支援の特性上、普段は所属園等での集団活動が中心となります。今後も訪問先施設と連携しながら、お子さまが安心して集団生活に参加できるよう支援を行ってまいります。
	⑦	子どものことを十分に理解し、子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21			支援時は、いつも子供の様子をよく観察してくださっています。そこから、子供の意志をくみ取ってくださっています。	温かいお言葉ありがとうございます。今後もお子さま一人ひとりの様子を丁寧に観察し、気持ちや意図を汲み取れる支援を大切にしながら、専門性の向上に努めてまいります。
	⑧	保育所等訪問支援計画作成に当たり、訪問先施設や担任等と情報交換がされていると思いますか。	21			訪問支援の度に、保育園の先生方と情報共有して頂いて居ます。保護者として、とてもありがたいと感じています。	今後も訪問先施設との連携や情報共有を丁寧に行い、お子さまにとってより良い支援につながるよう努めてまいります。
	⑨	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21				
	⑩	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	21				
保護者への説明等	⑪	事業所を利用する際に、運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21				
	⑫	必要なときに子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	21				
	⑬	定期的に面談や、子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21				
	⑭	子どもや保護者と意思疎通や情報伝達の為の配慮がなされていると思いますか。	21			特に子供が、言語遅延により言葉での意思疎通が難しいのですが、行動をよく観察して頂いており、それに合わせて接して下さっています。また、その様子を保護者に報告してくださっているので、お家で実践でき、子供と保護者の意思疎通にも役立っております。とてもありがたいです。	今後もお子さま一人ひとりの表情や行動を丁寧に読み取りながら支援を行うとともに、ご家庭でも活かせるよう分かりやすい情報共有に努めてまいります。
	⑮	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備されているとともに、保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか 。	21			様々な場面で、「いつでも相談してください」とお声かけして頂いています。	今後も保護者の皆様が気軽に相談できる関係づくりを大切にし、迅速かつ丁寧な対応を心掛けてまいります。
	⑯	定期的にHUGやLINE等で活動概要や連絡体制の情報等、業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21				
	⑰	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21				
	⑱	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21				
	⑲	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	21				

		チェック項目	はい	どちらともいえないわからない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	⑳	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	21				
	㉑	個人情報の取り扱いに十分配慮されていると思いますか。	21			契約時の説明の際にも、個人情報をとても配慮し、丁寧な説明をされていました。	今後も個人情報保護に十分配慮し、安心してご利用いただける環境づくりを継続してまいります。
非常時等の対応	㉒	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	20	1			今後も訪問先施設と連携しながら、緊急時に迅速かつ適切な対応が行えるよう体制整備に努めてまいります。
	㉓	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21				
満足度	㉔	事業所の支援に満足していますか 。	20	1		とても満足しています。Rasisaを利用することが出来て、とても良かったと感じています。	温かいお言葉をいただきありがとうございます。今後もお子さまが安心して過ごせる支援を大切にしながら、保護者の皆様にも安心してご利用いただける事業所を目指してまいります。
	㉕	子どもは訪問支援を楽しみにしていますか。	21			訪問支援が行われた日の帰宅後は、本人はとても機嫌が良いです。	温かいお言葉をいただきありがとうございます。今後もお子さまが安心して過ごせる支援を大切にしながら、保護者の皆様にも安心してご利用いただける事業所を目指してまいります。

（別紙７）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	Rasisa

公表日　２０２６年　6月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
運営体制・整	1	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		
業務改善	2	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0		
	3	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	4	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか 。	6	0	記録を書いた後の共有、話し合いの時間を通してできている。児発よりも訪問の方が共有できていると思う。	
	5	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0		
適切な支援の提供	6	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	6	0		
	7	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか 。	6	0		
	8	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	6	0	訪問先の先生方の意向を確認したり、事前に話し合う機会がどの程度あるのか。	
	9	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6	0		
	10	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	・定期的にフォーマルアセスメントを更新する必要がある。 ・インフォーマルなアセスメントは様々な職員の見立てを出し合い多角的に行っている。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	日によって時間が作れないときがある。意識的に朝礼などの確認の場を作る必要がある。	
	12	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0		
	13	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6	0		
	14	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	6	0		
	15	毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	16	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		

関係機関や保護者との連携	17	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	訪問支援先として保育・教育が入る中、自然と連携は生まれる。事業所間連携という意味では、障害福祉ともつながっている。	左記載事項に加え、より関係機関とつながっていく必要性があると感じている。
	18	就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0		
	19	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	2	定期的に外部研修は受けている。	専門性向上のため、より回数を増やしていくことが必要。
	20	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
保護者等への説明等	21	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	22	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	6	0	訪問支援員が中心となり行っている。	
	23	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	6	0		
	24	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	25	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	26	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	保護者同士、保護者と職員が顔を合わせて交流できる機会を懇談会等で作っている。昨年度より回数を増やした。	
	27	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	28	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	通信・SNSでの発信はないが、代わりとして保護者連絡ツールHUGで常に情報を発信している。	
	29	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	30	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
訪問先施設への説明等	31	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	6	0		
	32	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	6	0	訪問先の負担軽減も考え、大々的なカンファレンスよりミニカンファレンス（短時間での情報共有）の時間を必ず設けている。情報が不足する場合、書面やICTツールを活用しながらカンファレンスを補足している。	
	33	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	6	0		
	34	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	35	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	6	0		

非常時等の対応	36	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		マニュアルの周知（家族へ）が不足している。
	37	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	38	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	・年度最後にフォーマットを作り直す。	より詳細なフォーマットを基に、その都度出し合い、共有し、検討できる雰囲気をつくっていけるとよりよいと感じる。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0		

（別紙６）

公表　訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名
Rasisa

公表日　2026　年　6　月　1　日

利用児童数　2026　年　5　月　8　日　回収数　2

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	2				
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	2				
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	2				
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	2				
5	事業所からの支援に満足していますか。	2				

その他のご意見	ご意見を踏まえた対応
・児童への関わり、支援、行動の読み取りを丁寧に伝えていただいています。児童の理解、支援内容においても職員の子ども理解、指導方法において役立ち、満足しています。各位児童においても集団生活の中での困りごとを直接的に支援してもらえることは、安心につながります。個別支援、園生活の姿から伝えられる内容は、保護者にとっても信頼・安心につながっていると思います。保護者対応においても、役割分担（伝えやすさ、受け入れやすさ等）ができることは有難いと思っています。 ・いつも送迎時や訪問時に園での様子、Rasisaでの様子をスムーズに共有でき、日々の保育に活かす事ができました。様々な事業所がありますが、ここまで細かく丁寧に園や保護者様と情報共有している所はなかったので、とても安心でした。ありがとうございました。	・訪問先施設や保護者との情報共有、児童理解や支援方法について評価をいただいたため、今後も園・保護者・事業所間での連携を大切にしながら支援を継続していきます。 ・訪問時の助言や支援内容について、より具体的で実践しやすい提案となるよう努め、日々の保育や集団生活に活かせる支援を継続していきます。 ・今後も訪問先施設の職員の皆様と役割分担や情報共有を丁寧に行い、児童・保護者双方の安心につながる支援体制づくりに努めます。

（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	Rasisa			
○保護者評価実施期間	２０２６年　2月　２４日	～	２０２６年　3月　１５日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	23	（回答者数）	21
○従業者評価実施期間	２０２６年　2月　２４日	～	年　月　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○訪問先施設評価実施期間	２０２６年　3月　１３日	～	２０２６年　4月　１５日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	3	（回答数）	2
○事業者向け自己評価表作成日	２０２６年　5月　２１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先・保護者・事業所間の情報共有、連携体制が強いこと	訪問時や送迎時、ICTツール（HUG、LINE・LINEワークス、ZOOM等）を活用しながら、園・保護者・事業所間で細やかに情報共有を行っている。訪問後には短時間でもミニカンファレンスを実施し、訪問先の負担にも配慮しながら支援内容を共有している。	ICTツールや記録様式をさらに活用し、訪問先との情報共有をよりスムーズに行える体制づくりを進める。また、関係機関との連携機会を増やし、多機関連携をさらに深めていく。
2	子どもの特性理解に基づいた専門的・個別的な支援ができていること	行動観察や多職種の視点を活かしたインフォーマルアセスメントを行い、子どもの特性や背景理解を丁寧に行っている。訪問先の先生や保護者の意向も確認しながら支援計画を作成している。	定期的なフォーマルアセスメントの更新や、外部研修・専門家からの助言機会を増やし、職員の専門性向上につなげていく。
3	保護者・訪問先から安心感や信頼感を得られていること	保護者や訪問先からの相談に迅速に対応し、「いつでも相談できる」関係づくりを大切にしている。子どもの姿を具体的に共有し、家庭でも実践できる助言につなげている。	保護者交流の機会や懇談会等を継続しながら、保護者同士のつながりや安心感をさらに広げていく。また、情報発信の方法についてもより分かりやすい形を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との連携や専門性向上において、更なる発展の余地があること	保育・教育機関との連携は自然と行われているが、医療・福祉・外部専門機関との連携機会には偏りがある。また、外部研修は実施しているものの、専門性向上の機会をさらに増やしていく必要がある。	地域の関係機関との顔の見える関係づくりを進め、ケース会議や情報交換の機会を増やしていく。また、外部研修や専門家からの助言機会を定期化し、専門性向上につなげる。
2	安全管理やヒヤリハット共有体制に改善の余地があること	マニュアルの周知やヒヤリハット共有が十分に浸透しきれていない部分がある。記録様式や共有方法が職員によって異なり、振り返りの深さに差が出やすい。	ヒヤリハットのフォーマットを整理・統一し、日常的に共有・検討しやすい雰囲気づくりを行う。また、保護者も含めた安全マニュアルの周知機会を増やし、安全意識の共有を図る。
3	情報発信方法が限定的になっていること	HUGやLINEを活用した情報共有は行えているが、通信やホームページ等を活用した外部発信は十分ではない。利用者によって情報取得のしやすさに差が生じる可能性がある。	HUGを中心に情報共有を行っているが、今後は必要に応じて通信やホームページ等も含め、情報発信の方法を検討していく